



肺炎球菌ワクチン	1
病院薬剤師の仕事	2
レシピ紹介	3
その他	4

成人の肺炎球菌ワクチンについてのご紹介

【肺炎球菌について】

肺炎球菌は成人の気道に常在しますが、脾臓を摘出したり、糖尿病やがん、ステロイド使用中といった免疫の落ちている状況や、インフルエンザの感染直後では肺炎を起こす可能性が高まります。肺炎のほかに、副鼻腔炎、中耳炎、時に敗血症、髄膜炎といった重篤な疾病の原因となり、いったん肺炎・敗血症・髄膜炎になると強い病原性を発揮し、死亡や障害を残す可能性が高くなります。

【肺炎について】

細菌による肺炎は日本人の死因の第4位であり、日常生活で感染する肺炎の原因の第1位が、この肺炎球菌によるものです。

【肺炎の典型的症状】

潜伏期は1～3日と短く、突然のふるえや悪寒を伴う高熱で始まります。咳や痰、呼吸困難、胸痛も現れます。ただし、高齢者では高熱や咳や痰といった典型的な症状を示さないこともあるので気をつけましょう。

【診断・治療】

喀痰検査（つばの混ざりが少ない痰が必要）で菌の検出。肺炎診断はレントゲンを用います。ペニシリンなどの抗菌薬が効きますが、耐性菌も知られています。

【予防】

他の気道感染症のあとに見られることが多く、インフルエンザ等にかからないための手洗い・うがいは大切です。肺炎は一般には、適切な食事・運動・睡眠に加えて、禁煙、歯磨きも重要です。

【肺炎球菌ワクチン（PPV-23）について】

肺炎球菌には、91種類の血清型が知られていますが、その中で、人に病原性を持つ危険の高い23種類に対応しています。接種により感染の80%に対応できるとされています。免疫の低下している方、脾臓を摘出した方、65歳以上の高齢者に勧められています。米国では、喘息や喫煙者である成人も対象になっています。（なお、日本での保険適応は脾臓を摘出した方のみです）1回の接種で5年以上有効です。

従来、欧米では、本ワクチンは髄膜炎や敗血症などの重症には一定の有効性があるが、肺炎を予防する効果は不十分とされてきました。ところが丸山貴也医師らが英国医学雑誌に2010年に発表した論文では、高齢者施設の入所者の肺炎球菌性肺炎を63.8%、肺炎全体を44.8%抑制する結果となりました。この報告以外にも近年、本ワクチンが肺炎球菌肺炎の発症率・死亡率を抑制した、との結果が出ており、注目されているところです。

【まとめ】

日常的な疾患である肺炎から重症感染症である髄膜炎まで、肺炎球菌が起こす病気はさまざまですが、いったん罹患し重症化すると、死亡率も障害率も高い、恐ろしい感染症です。とくに、基礎疾患のある方は、予防接種については是非主治医へご相談されるようお勧めいたします。



呼吸器内科部長
兼 感染対策室部長
きのした よしのり
木下 善詞



病院薬剤師の仕事について

病院の中で働く薬剤師は、日々様々な業務に従事しています。患者さまが使用のお薬（飲み薬、塗り薬、注射薬等）を調剤するのはもちろんの事、患者さまのお薬が正しく安全に使用されるように確認しております。



薬剤師の仕事は調剤だけではなく、患者さまが入院してから退院するまでに様々な形で関わっています。

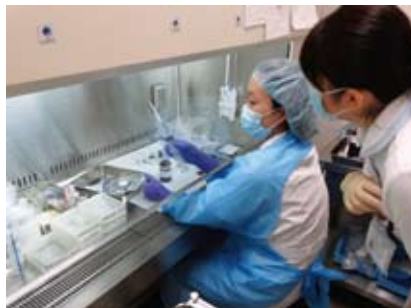
入院時には、持参の薬剤を預かり現在服用している薬の内容を確認（薬の種類や数、薬効や相互作用など）して、主治医へ報告します。お薬手帳があれば、スムーズに調べる事ができますので、お薬手帳を是非ご持参して下さい。

入院後は、医師が患者さまへ処方する薬の内容などを確認し、お薬の説明に伺っています。

入院される方へお願いです。入院中に、いつも服用しているお薬と同じお薬を服用していただくため、予想される入院期間中の分のお薬をご持参していただきますようお願いいたします。



薬剤師は、入院や外来通院されている、がん患者さまの治療に用いる抗がん剤の投薬スケジュールの確認を行うことや、抗がん剤を調製する業務を行っております。また入院患者さまで、食事ができない方に使うカロリーの高い輸液を無菌室（清潔な部屋）の中で患者さまごとに調製を行っております。



これらの業務以外に、新しく開発されるお薬が、病気に対して有効かどうか、安全かどうかを患者さまに協力頂いて試験をすることを治験と言いますが、国が定めたルール（GCP）に従い、安全に治験が実施されるようにサポートしています。当院の薬剤師の中には、がん専門薬剤師や感染制御認定薬剤師、栄養サポート専門薬剤師、糖尿病療養指導士などの資格を有して、病院の中でチーム医療に携わっています。それぞれの医療チームの中で薬の専門知識を活かして、患者さまにとってより良い医療を目指していきます。

レシピ紹介 春野菜を使った疲労回復レシピ～栄養管理担当～

春野菜を使ったおいしいメニュー

春の野菜に多く含まれるビタミン類は代謝の促進、疲労回復などに効果があり、苦味成分には肝臓の働きを助け、解毒作用があります。

「たまねぎ（玉葱）」には疲労回復や風邪の予防、血管の老化を防ぐ効果があります。

「とうみょう（豆苗）」は栄養価が抜群に高く、皮膚や粘膜などの働きを向上させて呼吸器系を守るβカロチンや、疲労回復に役立つビタミンB群、免疫力を高めるビタミンCなどが沢山含まれています。

「にら（韭）」は、強壮の効果があると知られており腹部を温め、胃腸の機能を改善し、血行を良くしていきます。また消化酵素の分泌を促し、食欲を増進させる働きがあります。

「グリーンピース」は、タンパク質や糖質を主成分としており、栄養価が高い食品です。免疫力を高める効果があり、老化防止、がん予防、美肌効果などが期待できます。



栄養管理担当 主幹
いわの みなこ
岩佐 美奈子
栄養管理のプロが
紹介します！

新玉葱とローストビーフ

作り方

- ①フライパンにオリーブオイルを入れ、牛もも肉に焦げ目をつける。
- ②焦げ目がついたら、肉を取り出し、フライパンに、ニンニク、セロリ、新玉葱を入れよく炒める。白ワイン、コンソメ、醤油、取り出した牛もも肉を入れ12～13分焼く。
- ③牛肉は取り出し、アルミホイルに包み余熱で蒸らす。
- ④新玉葱をスライスして軽く水にさらす。
- ⑤ローストビーフとスライス玉葱を盛り付け、ポン酢をかけ、お好みによりオリーブオイルを適量入れる。

4人分 材料の紹介

牛もも肉	400 g
塩、胡椒	各 4 g
ニンニク、セロリ、新玉葱	各少々
白ワイン	大さじ 3
コンソメ	小さじ 1
醤油	大さじ 1
オリーブオイル	適量



とうみょう(豆苗)のナムル

作り方

- ①とうみょうは、さつと洗い軽くボイルする。
- ②味付けは、ゴマ油、だし醤油を適量を入れ、お好みでラー油、すりゴマを入れて和える。

4人分 材料の紹介

とうみょう	1袋
だし醤油	小さじ 1
ゴマ油	大さじ 1
ラー油、すりゴマ	適量



アサリとニラの酒蒸し

作り方

- ①ニラは、食べやすい大きさに切る。
- ②アサリは砂抜きしたものを使う。
- ③フライパンにバターを入れ、アサリをからめながら炒める。
- ④③にお酒を入れ、蒸し焼きにする。
- ⑤アサリが開いたら、ニラを入れ、ニラがしんなりしたら、できあがり。

4人分 材料の紹介

材料の紹介	
アサリ	400 g
バター	小さじ 1
酒	大さじ 5
ニラ	2束



豆ご飯

作り方

- ①米を洗い、水を切っておく。
- ②水（白米を炊く時と同じ分量）を入れ、だし昆布、塩、酒、うぐいすえんどうを入れて炊く。

4人分 材料の紹介

米	2合
塩	小さじ 1
酒	大さじ 1
だし昆布	5 cm角
うぐいすえんどう	(正味) 100g



市立伊丹病院からのお知らせ

医師 人事異動

採用		退職	
平成 25 年 12 月 1 日		平成 25 年 9 月 30 日	
呼吸器内科 非常勤医	上村 加奈子	臨床研修医	植阪 真弓
平成 26 年 1 月 1 日		平成 25 年 11 月 30 日	
整形外科 医長	石井 崇大	循環器内科 副医長	坂本 智江
中央検査室 医長	木村 勇人	平成 25 年 12 月 31 日	
呼吸器内科 副医長	高田 哲男	呼吸器内科 副医長	出上 裕之
平成 26 年 3 月 1 日		平成 26 年 2 月 28 日	
眼科 副医長	谷井 啓一	整形外科 医長	中村 俊之
平成 26 年 3 月 17 日		平成 26 年 3 月 31 日	
泌尿器科 副医長	前田 寛	麻酔科 医長	竹村 瑞恵
平成 26 年 4 月 1 日		平成 26 年 3 月 31 日	
糖尿病センター センター長	濱口 朋也	医療技術部長 兼 放射線科 主任部長	玉岡 紅一
歯科口腔外科 主任部長	太田 嘉幸	診療部長 兼 中央検査室 主任部長	福田 春樹
外科 医長	高橋 秀和	産婦人科 主任部長	加藤 宗寛
歯科口腔外科 医長	木本 雅也	産婦人科 主任部長	内田 浩
血液内科 医員	高橋 雅文	産婦人科 医長	富家 真理
小児科 医員	川村 孝治	産婦人科 医長	江原 千晶
外科 専攻医	浅井 健佑	外科 医長	小山 太一
呼吸器内科 専攻医	浦野 順平	アレルギー疾患リウマチ科 副医長	関口 有希
呼吸器内科 専攻医	寒川 貴文	泌尿器科 副医長	二宮 典子
呼吸器内科 専攻医	牧尾 健史	歯科口腔外科 副医長	赤垣 俊輔
呼吸器内科 専攻医	三好 啓治	産婦人科 医員	黒田 浩正
整形外科 専攻医	立岩 大輔	産婦人科 医員	高橋 佳世
整形外科 専攻医	塚崎 裕之	臨床研修医	劉 納新
放射線科 専攻医	森松 淳	臨床研修医	三山 彬
臨床研修医	青木 菜摘子	臨床研修医	井上 大輔
臨床研修医	梅田 大介	臨床研修医	南 知里
臨床研修医	加藤 聖也	臨床研修医	向井 エリ
臨床研修医	那須 文香		
臨床研修医	萩澤 宏樹		
臨床研修医	まつおか 基行		

イベント開催

市立伊丹病院 ガーデンコンサート

日時 平成26年5月27日(火)

16時~17時

場所 市立伊丹病院 1階中庭

※雨天時、1階ロビー

出演 伊丹ホルンアンサンブル

内容 ホルン奏者3名によるアンサンブル。初夏の陽気に包まれながらホルンの音色を楽しみます。

参加費 無料

主催 患者サービス向上委員会



市立伊丹病院 第40回 市民公開講座

『転ばないための体づくり (第2弾)』

日時 平成26年5月29日(木)

14時より開演いたします
(13時30分より受付開始)

場所 スワンホール

(伊丹市立労働福祉会館)

3階 多目的ホール

座長 老年内科主任部長 中村 好男



講演1「転んでも寝たきりにならない体づくり

—知ってつきあう骨粗鬆症—

市立伊丹病院 整形外科 医長 石井 崇大

講演2「寝たきりに、ならないさせない認知症」

大阪大学 老年・腎臓内科学 講師 竹屋 泰

体操「転倒しない体づくり(第2弾)、懐メロ編」

市立伊丹病院 理学療法士 池西 弘達

伊丹市からのご案内

「“いきいき百歳体操”について」

伊丹市 健康福祉部 地域・高年福祉課
保健師

～保険医療機関では毎月、患者様に保険証の提示をお願いしております。月初めには初診受付で保険証の提示、確認にご協力くださいますようお願いいたします。～